

フルス  
葫蘆絲

ひょうたん笛(標本番号H236824、高さ/43cm 幅/14cm 奥行/6.5cm)中国

## 陳天璽(ちんてんじ)

本館先端人類科学研究部

フルス。ひょうたん笛ともよばれる。中国西南地区の少数民族に古くから愛用されてきたといわれている管楽器。このフルスには白キジの羽が四本付いており見た目にも愛らしい。

この楽器は、ひょうたんの部分を胴とし、竹を管とする。管の数は楽器によってさまざまで、通常は二管から三管ほど。それぞれの管に穴がつけられ、それらを操りながら吹く。構造的には「バグパイプ」に近い。はじめてこの楽器を手にしたとき、どう演奏すればよいのか戸惑うだろう。ひょうたんに直接付いている細い部分が吹き口。わたしは逆さまに吹いてしまい音が出ずに、恥ずかしい経験をした。

演奏には循環奏法とよばれる方法が用いられることもあり、これは、オーストラリア・アポリジニの楽器「ディジュリドゥー」でも

用いられる演奏方法だというと、ご存知の方もあるかと思う。

フルスは、達人の手にかかれば、柔らかく、やさしい音が流れ、それは雅楽の笙の音に似ている。うっとりさせられる音色は、愛情を伝えるのにぴったりだ。かつて、タイ族の男性は、自分が思いを寄せる女性に愛を伝えるため、フルスにその想いを託し、彼女が振り向いてくれるまで一晩中演奏し続けたという。心打たれた女性は口琴でその愛に応えた。小さなフルスは人びとの愛をつなぐ大きな役目を担ってきた。

西南中国少数民族にはメジャーなこの楽器、じつは漢族のあいだではあまりポピュラーな楽器とはいえない。知り合いの複数の漢族の人に「葫蘆絲を

知っていますか」と質問をしたところ、「チンジャオロース(青椒肉絲)のような、ひょうたん料理の一種？」といわれてしまった。しかし、このどこか懐かしい音色の楽器は、最近、中国本土では流行の兆しがあるという。中国のCDショップにはフルスのCD/DVDが増えている。フルスの音色を聞いていると、少数民族たちの愛のメッセージが中国をやさしく包んでいくような気持ちになれる。

